

研究・調査報告書

報告書番号	担当
174	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Binge drinking and associated health risk behaviors among high school students. 高校生における多量飲酒と関連する健康を害する行動について	
執筆者	
Miller JW, Naimi TS, Brewer RD, Jones SE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pediatrics. 2007 Jan;119(1):76-85.	
キーワード	
高校生、飲み騒ぎ、健康を害する行動、他殺、自殺	
要 旨	
<p>目的： 未成年の飲酒は 12-20 歳の 3 大死因（不慮の事故、他殺、自殺）の原因の一つである。未成年の飲酒の悪影響は多量飲酒による急性中毒である。多量飲酒（典型的には一回につき 5 本以上の飲酒）は未成年の一般的な飲酒パターンであるが、未成年の多量飲酒と健康を害する行動との関連を検討した研究はほとんどない。</p> <p>方法： 2003 年 National Youth Risk Behavior Survey 調査の高校生 14114 人を対象に検討を行った。</p> <p>結果： 回答を寄せた高校生の 44.9%が最近 30 日間の間飲酒しており 28.8%が多量飲酒、16.1%が多量飲酒ではない飲酒であった。女性は多量飲酒ではない飲酒が多いが多量飲酒の率は男女同じであった。飲み騒ぎをしたことがある学生は他の学生と比較して学業成績が悪く、飲酒運転に同乗したり、性犯罪の被害にあったり、喫煙、違法薬剤、自殺企図など健康を害する行動が多かった。多量飲酒の率は年齢、学年があがるほど増加し、多量飲酒の頻度は健康を害する行動と強い量-反応関係を示した。</p> <p>結論： 高校生において多量飲酒は一般的な飲酒パターンであり様々な健康を害する行動と強く関連していた。未成年の飲酒と健康や社会を害する行動を予防するために効果的な介入方法（例えば、法的に飲酒可能年齢を引き上げる、飲酒者のスクリーニングと短期的介入、飲酒税の増税）が必要である。</p>	